

学 位 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1. 申請者氏名	竹井 秀文
2. 審査委員	主 査：（岐阜大学教授） 柳沼 良太 副主査：（鳴門教育大学教授） 田村 隆宏 委 員：（岡山大学教授） 西山 修 委 員：（岐阜大学教授） 平澤 紀子 委 員：（岐阜大学准教授） 芥川 祐征
3. 論文題目	未来志向の道徳授業の開発と実践 ープラグマティズムを基軸に心理学的アプローチを活用してー
4. 審査結果の要旨	先端課題実践開発専攻先端課題実践開発連合講座竹井秀文から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：令和7年1月30日（木） 18時40分～19時20分 場 所：オンライン 1. 学位論文の構成と概要 I 部 研究理論と実践開発 第1章 プラグマティズムを活用した道徳授業理論と実践開発及び考察 第2章 ABCDE理論を活用した道徳授業理論と実践開発及び考察 第3章 ポジティブ心理学を活用した道徳授業理論と実践開発及び考察 第4章 解決志向ブリーフセラピーを活用した道徳授業理論と実践開発及び考察 II 部 未来志向の道徳授業における全体考察 第1章 未来志向道徳アンケートについて 第2章 未来志向道徳アンケート結果と考察 本研究は、子ども一人一人が未来へ向けてよりよい生き方を探究する「未来志向の道徳授業」を開発実践し、その効果検証することを目的とした。その理論的基盤をジョン・デューイのプラグマティズムと関連づけ、子どもたちが自ら道徳的問題の状況に直面し、分析する中で具体的な課題を見出し、未来に向けて様々な解決策を構想し協働探究していく指導過程を多様なアプローチで開発実践した。 本論のI部では、未来志向の道徳授業に関する理論を形成し、その授業実践の開発について具体的に論じた。第1章では、ジョン・デューイのプラグマティズムを基軸とした心理学的アプローチを構想し、それを道徳授業に活用して、未来志向の教材開発や発問構成を行って授業を改善した。第2章では、アルバート・エリスの論理療法にあるABCDE理論を活用して、未来志向の道徳授業の学習指導過程を独自に開発した。道徳的問題の発見と分析、その解決策の構想とその予想結果などを協働して検討することで、未来の生き方について考察する授業構成を提示した。第3章では、マーチン・セリグマンが提唱したポジティブ心理学や幸福学の見地を活用した、未来志向の道徳授業を開発・実践した。自己の道徳的強みを見つけ活用する指導法、および人生の意味・意義を自覚する指導法を開発実践した。そこではポジティブ感情が発生・起因する自分の道徳的強みを見つけ、それを未来へ向けて活用させる指導法を実施して、その学習効果を検討

した。第4章では、解決志向ブリーフセラピーを活用した未来志向の道徳授業を開発した。ここでは、顕在化された問題に対して将来の解決像を描いて、それに必要な内的・外的リソースを見つけ出して、その実現可能性を検討する授業構成とした。以上のように、プラグマティズムに基づく三つの心理学的アプローチを活用して未来志向の道徳授業を開発・実践して、その有用性と可能性を多角的に考察した。

本論のⅡ部では、Ⅰ部で提示したプラグマティズムを基軸とした心理学的アプローチによる未来志向の道徳授業の成果を分析し考察するために、授業の前後で道徳意識アンケート調査を行って児童の実態や考え方にどのような変容があるかを検討した。また、アンケート結果の変化について統計的手法（マクネマー検定）を用いてその効果を検証した。特に、未来志向の道徳授業に特徴的な内容として「未来に向けてどう生きるか」、「未来のよりよい社会をどう創るか」等に関しては、肯定的な意識変容を確認することができた。以上から、子どもたちが現状の道徳的問題を見出し、よりよい未来を思い描きながら他者と共に協働探究して問題解決に取り組む、「未来志向の道徳授業」の学習効果を検証することができた。今後の課題としては、子どもが将来よりよく生きようとする意欲や態度について、質的研究と量的研究を取り入れた混合研究法によって継続的に効果検証を行って、その指導法の改善充実に役立てることである。

2. 審査経過

本論文の研究内容について独創性や発展性、学校教育の実践への貢献などについてそれぞれ審査を行った。

まず、論文の独創性としては、従来の道徳授業をデューイのプラグマティズムの理論に基づいて再構成し、そこに三つの心理学的アプローチを取り入れて、未来志向の道徳授業の理論と指導法を開発・実践し、その学習効果を検証した点にある。

次に、論文の発展性としては、道徳授業に論理療法のABCDE理論とその授業実践を開発・実践しただけでなく、さらに別のポジティブ心理学や幸福学および解決志向ブリーフセラピーの見地を取り入れて発展させ、道徳科の問題解決的な学習や体験的な学習を多様化し、それを具体的な道徳授業で実践可能なレベルに再構成したところである。

第三に、学校教育の実践への貢献としては、プラグマティズムに基づく心理学的アプローチを用いた「未来志向の道徳授業」をどの学校現場でも活用できるように、具体的な教材を複数開発し、詳細な指導案と共に提示し、さらにワークシートや関連資料およびアンケートなどを用意して、実践可能な形で広く公開したところである。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は竹井秀文の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。